

SHARP 設置工事説明書

蓄電池本体 JH-WB1921

【製造元】 シャープ株式会社
 【システムについての問い合わせ先】
 〒639-2198 奈良県葛城市薑282番1 電話 0745 (65) 1161 (大代表)

安全な設置作業及び安全にご使用いただくために必ずお読みください。また、詳細は最新の設置工事マニュアルに従ってください。

- ◆設置工事を始める前に必ずこの設置工事説明書をお読みになり正しく安全に取り付けてください。
- ◆蓄電池システムの電気工事を行う場合は、第一種または第二種電気工事士の資格を保有し、電気設備・機器の設置に適用される全ての法規、規格に関する知識を有する人が行ってください。
- ◆本書の内容および、設置に関する全ての安全上の注意を理解して設置を行ってください。
- ◆工事中に異常を発見した場合は、速やかに工事を中断し販売会社または弊社までご連絡ください。
- ◆ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので必ずお守りください。
- ◆取り付け、配線に関しては必ず同梱の部材を使用してください。
- ◆また、同梱されていない部材については最新の設置工事マニュアルに指定された部材を使用してください。
- ◆設置工事説明書または設置工事マニュアルに記載されていない設置や加工は絶対に行わないでください。
- ◆本書に記載されていない設置や加工を行ったことが原因で故障が生じた場合、製品保証の対象外となります。

●誤った取り扱いをしたときに生じる危険とその程度を次の表示で区分しています。

警告	作業を誤った場合に、取付工事業者又は使用者が死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの。	禁止	
注意	作業を誤った場合に、取付工事業者又は使用者が傷害又は財産の損害に結びつく可能性があるもの。	指示に従い必ず行う	

警告

- 電気工事は電気設備技術基準や内線規程及び労働安全衛生規則を守り、絶縁用保護具を着用、または活線作業用器具を使用し正しく安全に行うこと。火災・感電・けがのおそれがあります。
- 蓄電池本体は万一の感電を防止するため及び、落電の被害を軽減するために、アース端子を使用し、必ずパワーコンディショナとは独立したアース線を設置する。また、D種(旧第3種)接地工事を行うこと。アースは長期維持されること。火災・感電・けがを予防します。
- 低圧用ゴム手袋を使用し電気配線を行う。
- 足場がぬれた状態や手や身体がぬれた状態で作業はしない。感電するおそれがあります。
- 配線後、ケーブルが抜けがないことを確認する。

- 本製品は重量物ですので、荷積み、運搬、組立、設置工事のときには安全に十分注意してください。(設置作業は2人以上で行うこと)
- また、運搬、設置工事のときには製品、建屋、設置場所に傷等が付かないように注意してください。
- 蓄電池本体はボルト(4箇所)でコンクリート基礎(簡易基礎、本基礎)(屋外設置時)または屋内設置用金具(屋内設置時)に固定してください。

- 次の場所には設置しないでください。
 - 蓄電池本体は場気のあたるところには設置しない。絶縁が悪くなり、火災・感電のおそれがあります。
 - 蓄電池本体は崖地等に設置しない。(海岸から50m以内または強風が直接当たる場所)
 - 蓄電池本体は浸水のおそれのある場所には設置しない。火災・感電のおそれがあります。
 - 蓄電池本体は、湿気が多く風通しが悪い場所に、設置しないでください。湿気の多い場所に設置すると絶縁が悪くなり、火災・感電のおそれがあります。
 - 蓄電池本体は、高温になる場所に設置しない。機器本来の性能が発揮できなくなると共に、部品が劣化して発煙・発火するおそれがあります。
 - 蓄電池本体は、高温になる場所に設置しない。電気回路や部品が劣化して焼損・発火するおそれがあります。
 - 蓄電池本体は、腐食性ガスや液体に触れる場所(鶏舎・畜舎・化学薬品を取り扱う所等)に設置しない。部品が劣化して発煙・焼損するおそれがあります。
 - 蓄電池本体は、湿気が直接吹き付けるところへは置かない。電が付き、漏電・焼損するおそれがあります。
 - 蓄電池本体を天地逆方向、横方向、あるいは水平方向に設置しない。また傾けて設置しない。

- この設置工事説明書で規定した以外の分解・改造・筐体の穴加工及び修理はしない。安全が保証できなくなり危険です。また、筐体内部に高い電圧がかかる箇所があり、感電やけがのおそれがあります。

- 専用コンセントと家庭内の他のコンセントを延長ケーブルなどで接続しない。予期せぬ発火・発煙・感電・機能障害・停電のおそれがあります。

- ケーブルを破損させない。感電のおそれがあります。
- 冠水品を使用しない。感電・故障の原因になります。

- 蓄電池を火中に投じない。蓄電池が爆発する可能性があります。
- 蓄電池を開封又は切開しない。放出した電解液が肌や眼に害を及ぼす可能性があります。
- 指定された蓄電池以外を使用しない。

注意

- 蓄電池本体の設置位置は、この設置工事説明書が示している寸法を守る。
- 蓄電池本体、蓄電池モジュールの取り付け作業は2人以上で行う。

- 蓄電池は保管中でも寿命・性能が低下します。製品到着後速やかに設置してください。

- 蓄電池本体内部に雨水が入らないようにしてください。感電・故障の原因になります。

- 蓄電池本体に塗装を行わないでください。日射により筐体内部温度が異常に上昇し故障の原因になります。

- 蓄電池本体を放送局送信アンテナと家庭用受信アンテナとの間に設置しない。設置場所によっては、ラジオ、テレビジョン受信機等に受信障害を与える場合があります。
- 騒音に厳しい制約を受ける場所に設置しない。
- 電氣的雑音について厳しい制約を受ける場所には設置しない。
- 医療用機器の近くに設置しない。医療用機器が誤動作するおそれがあります。
- アマチュア無線のアンテナが近くにあるところには設置しない。

- 蓄電池本体の上に乗ったりぶらさがったりしない。けがのおそれがあります。
- 蓄電池本体の上には置かない。
- 蓄電池本体の中に設置工事説明書または設置工事マニュアルに記載されていない物を入れない。故障の原因になります。

- 蓄電池本体を薬品(シンナー等)で拭かない。

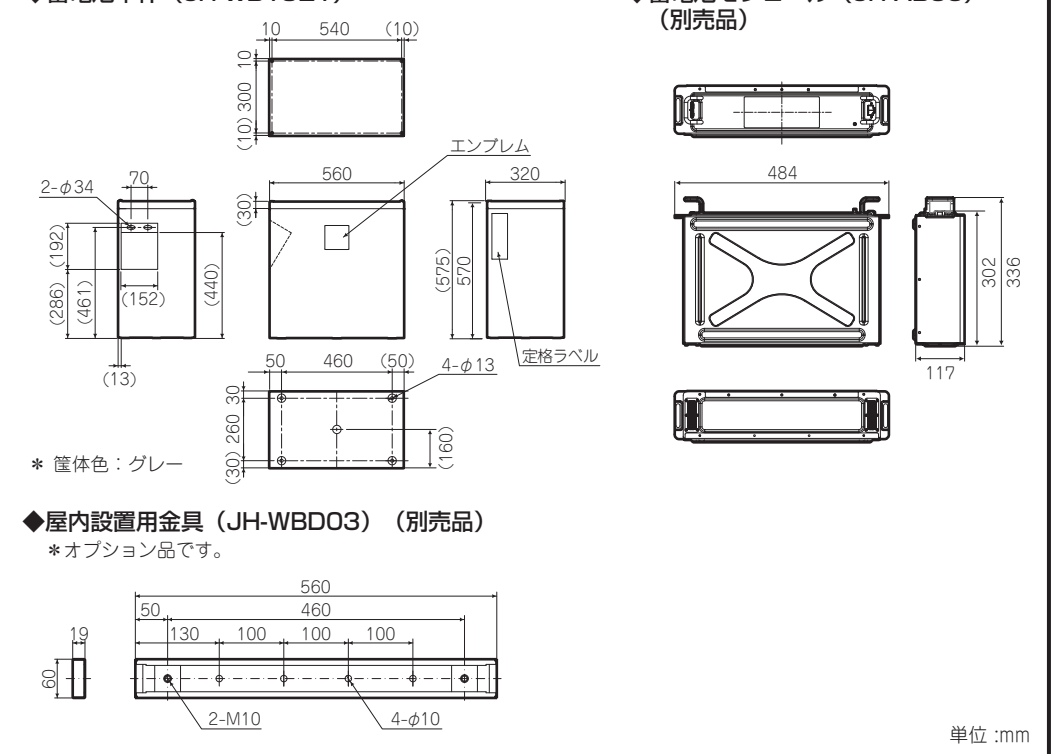
注意	●本紙の指示通りに本製品の設置作業をしてください。設置工事に不備があると、感電、けが、火災のおそれがあります。	質量	JH-WB1921 約74kg
	●本製品の質量(右表)に耐える場所、転倒、落下のおそれがない平らな場所、また振動、衝撃の少ない場所に、本紙記載の通りに設置してください。本製品の転倒などにより、けがのおそれがあります。		

この説明書は植物油インクを使用しています。記載内容は予告なく変更する場合があります。

仕様	
JH-WB1921	
蓄電容量	公称容量(定格容量) 6.5kWh(6.3kWh)リチウムイオン電池(蓄電池モジュールJH-AB06:2個使用)
使用条件	設置場所 屋外・屋内兼用 ※1
外観	動作温度範囲 -10~40℃(但し、直射日光下は除く)
	寸法 560(W)×320(D)×575(H)mm
重量	約74kg
	蓄電池モジュール:約24kg×2個 蓄電池本体:約26kg(コントローラを含む)
安全性	過充電、過放電、過電流を検出し、自ら回路を遮断 蓄電池モジュール異常時には、充電電流の停止を行い、回路を遮断 ・コントローラ異常検出時は、回路を遮断
通信機能	蓄電池モジュール残量、総電圧、温度、異常アラーム信号などをRS485通信にてパワーコンディショナと通信

*1 屋内に設置する場合、別途屋内設置用金具JH-WBD03(2個入り/1セット)が必要です。

外形寸法図



端子

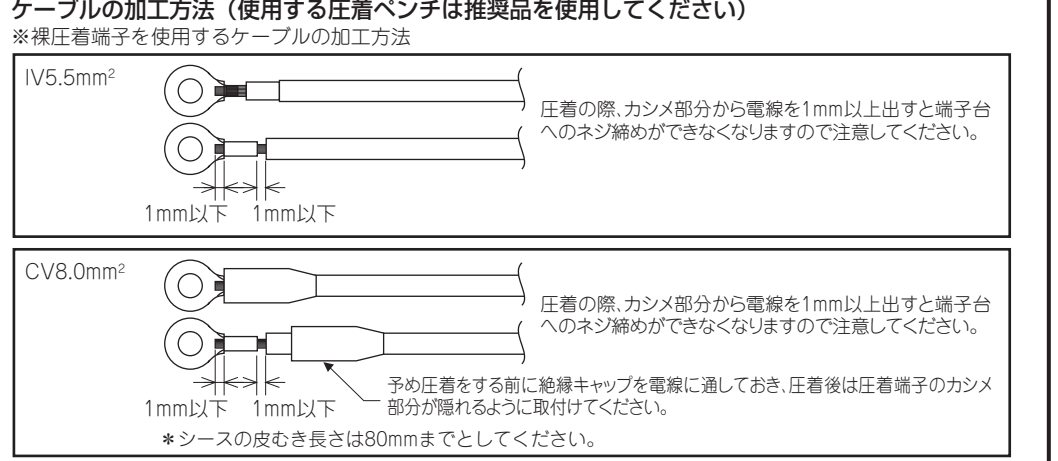
端子名	端子形状	備考
蓄電池モジュール	パワーコネクタ	コネクタ
	インターフェースコネクタ	コネクタ
	アース	丸端子 (M5) 筐体内部の右側面の柱に接続
コントローラ	パワーコネクタ	コネクタ 蓄電池モジュールと接続
	端子台	丸端子 (M5) DC+, DC-: パワーコンディショナまたは蓄電池用コンバータと接続 アース: コントローラ用(筐体内部の奥側の部材に接続)
	インターフェースコネクタ1	22ピン(左側) 奥の蓄電池モジュールと接続
	インターフェースコネクタ2	24ピン(右側) 手前の蓄電池モジュールと接続
	通信コネクタ (I/O コネクタ)	10Pコネクタ パワーコンディショナまたは蓄電池用コンバータと接続
	シャーンアース	丸端子 (M4)
筐体	蓄電池本体用アース	丸端子 (M8) グリーンボルト(筐体内部の奥側の部材に接続)
	コントローラ用アース	丸端子 (M5) 筐体内部の奥側の部材に接続
	蓄電池モジュール用アース	丸端子 (M5) 筐体内部の右側面の柱に接続

ご用意頂く配線・機材

◆配線	推奨ケーブル	端子種類	推奨圧着ペンチ ○内は端子形状への対応	端子位置	備考
アース線	IV-5.5mm ² (緑色/黄色 または緑色)	R5.5-8 (同極品)	MH-8(1.25/2.5/5/8)、 YHT-2210、JST製	グリーンボルト	蓄電池本体アース用
DC配線	CV-8.0mm ² ×2心	8-5NS (同極品) TCV-81 (同極品)	MH-8(1.25/2.5/5/8)、 YHT-8S、JST製	コントローラ端子台 (DC+, DC-)	パワーコンディショナまたは蓄電池用コンバータコントローラ用

◆機材	推奨ケーブル	端子種類	推奨圧着ペンチ ○内は端子形状への対応	端子位置	備考
アース棒(リード線付き)、電気工事用ビニールテープ(住友3M(株) #33を推奨します)、シーリング材、ウェス等 (工具) 電動ドライバー(トルク調整範囲:0.6 ~ 2.5N・m)、同ビット(200mm)、巻尺(1m以上)、ナードライバー、ラチェットまたはメカネレンチ、トルクレンチ(トルク調整値:2.0N・m)、トルクドライバー、ニッパー、圧着ペンチ、ペンチ、電動ドリル、ホルソー、コードリール、脚立、軍手、低圧用ゴム手袋、保安帽(ヘルメット)、水平レベル、ワイヤーストッパー、油性マーカー(黒)等 (測定器) デジタルテスター、アーステスター(接地抵抗測定器)等					

ケーブルの加工方法



設置

- ◆設置に関する注意事項
 - 使用周囲気温度(-10~40℃)を満足する場所に設置してください。
 - 直射日光の当たらない場所に設置してください。
 - 次のような場所には設置しないでください。
 - 塩分や腐食性ガスのある場所 ・振動、衝撃のある場所 ・ホコリの多い場所
 - 2人以上で作業すること。(蓄電池本体約26kg)
 - *搬入時に家屋を傷つけることのないように注意してください。
 - 蓄電池モジュールの設置位置は、本紙記載の寸法に準拠してください。
 - 蓄電池本体は、凹凸がない水平な場所に設置してください。
 - 蓄電池本体とパワーコンディショナまたは蓄電池用コンバータをつなぐ蓄電池ケーブル(通信ケーブル)は別売です。配線に20m以上の距離を必要とする場合、蓄電池システムは設置できません。

◆ご用意頂く工事関連商品

現場調達品	使用場所	サイズ	員数
プールボックス	住宅壁面		1
PF管用コネクタ	蓄電池本体(2つ)、プールボックス(2つ)	φ28	4
PF管	蓄電池本体-プールボックス間(蓄電池本体-パワーコンディショナまたは蓄電池用コンバータ間)	φ28	適量
ボルト	コンクリート基礎へ蓄電池本体を設置するために使用	M10 SUS	4

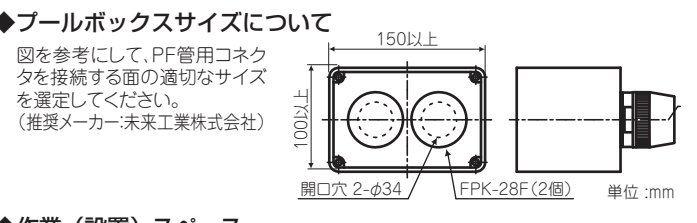
PF管	入線するもの	現場調達品
①	電力ケーブル (蓄電池本体内部コントローラ-パワーコンディショナまたは蓄電池用コンバータ)	現場調達品
	蓄電池本体用アース線	現場調達品
②	蓄電池ケーブル(通信ケーブル) (蓄電池本体内部コントローラ-パワーコンディショナまたは蓄電池用コンバータ)	別売品

必ずご確認願います

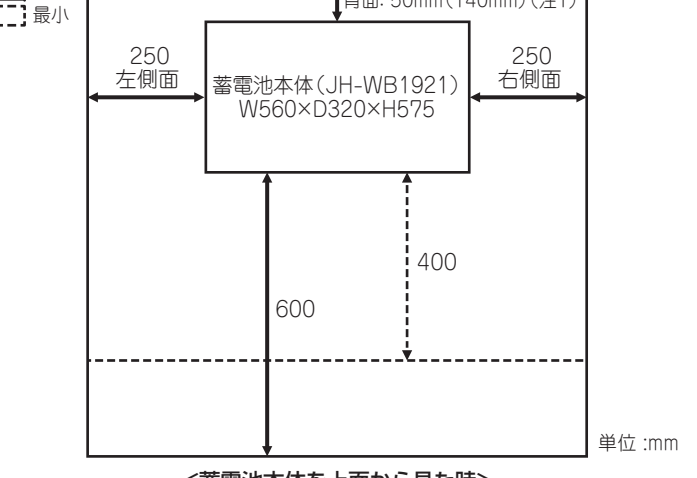
- (PF管、PF管用コネクタについて)
 PF管用コネクタは防水タイプを使用してください。
- (防水タイプ)
 PF管は内径28mmのPF管を使用してください(*未来工業(株)製 MF-28□)。
 PF管用コネクタはPF管(内径28mm)に合う防水コネクタ(適合穴径φ34mm)を使用してください(*未来工業(株)製FPK-28F□)。
 ※防水性確認済。□は色を表す記号
- *コネクタによっては、水の浸入を防ぐために別売りの部材が必要となる場合があります。詳しくは商品仕様をご確認ください。

- ◆プールボックスについて
 蓄電池本体からの配線を住宅壁面へ引き込む際はプールボックスをご使用ください。
 PF管用コネクタ接続用の穴は別売リレーを使用しておいてください。

- ◆PF管用コネクタをノックアウトのないボックスに取り付ける時の穴径



- ◆作業(設置)スペース



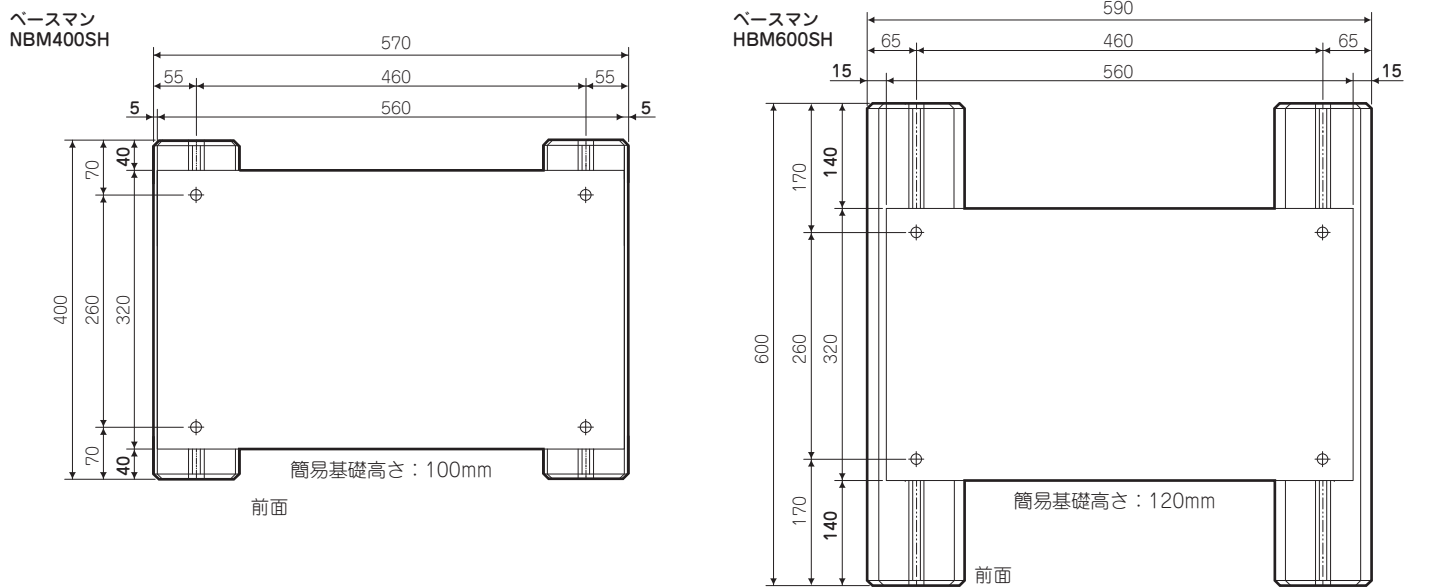
- <蓄電池本体を上から見た時>
 蓄電池モジュールを上方より挿入しますので、高さ方向に1400mm以上(基礎高さが1000mmの場合、蓄電池本体上方向作業空間約700mm)の空間が必要となります。
 (注1): 蓄電池本体と地面までの距離です。以下を考慮しています。
 ①) 本紙の取付け、取付け(ただし、ライレー)の作業性を含む。
 ② 蓄電池本体へのPF管取付け作業性
 耐震クラスAの対応施工では最小140mmとなります。

- ◆蓄電池本体の基礎工事
 - 蓄電池本体(JH-WB1921)は、本紙に記載する簡易基礎を使用することができます。(同等性能を有する簡易基礎は設置工事マニュアルにて確認してください)
 - 設置工事マニュアルに記載されていない簡易基礎を使う場合やコンクリートの本基礎を作製する場合は、基礎寸法、アースボルト仕様、コンクリート強度、ベース筋などについて、専門の工事業者(建築士等)と十分に相談の上、実施してください。
 - 蓄電池本体(JH-WB1921)の重心情報等詳細については、設置工事マニュアルにてご確認ください。
 - 蓄電池本体のボルト接続位置は4箇所(幅方向460mm、奥行方向260mm)です(外形寸法図参照)。
 - 蓄電池本体の簡易基礎への取付けは、前後のスペースがなるべく均等になるように設置してください。
 - (本基礎を作製する場合は、左右前後のスペースが均等になるように設置してください)
 - 簡易基礎の設置面が水平であることを確認してください。本基礎を作製する場合は、基礎表面が水平であることを確認してください。
 - 簡易基礎は、コンクリート面への設置を推奨します。土の上に設置する場合は、必ず設置面が沈み込まなくなるまでしっかりと填圧してから簡易基礎を設置してください。

- ▲注意
 簡易基礎の設置面や本基礎が水平となっていない場合、蓄電池本体を適切に設置できなかつたり、設計通りの耐震強度が得られず、蓄電池本体が転倒する可能性があります。

◆簡易基礎

耐震クラスB対応施工(1階(地表)設置の場合)				
設計震度	製品名	メーカー	蓄電池本体背面への基礎のみみ出し	蓄電池本体側面への基礎のみみ出し
耐震クラスB対応施工	ベースマン NBM400SH	(株)竹原電設	40mm	5mm
耐震クラスB対応施工	ベースマン NBM500SH	(株)竹原電設	90mm	5mm



付属品

- ◆蓄電池本体: JH-WB1921

品名	数量	備考
電力ケーブル(組品)		
赤		
黒		
黒	1式	コネクタ(赤): コントローラと接続 コネクタ(黒): 蓄電池モジュールと接続
通信ケーブル		
A:22ピン		
B:24ピン	計2本	蓄電池モジュール-コントローラ間で使用 A: コントローラと接続(22ピン)×1 B: コントローラと接続(24ピン)×1
アース線		
A		
B	計2本	A: 蓄電池モジュール用×1 B: コントローラ用×1
結束バンド	1本	
横圧着端子 (R5.5-8)	1個	蓄電池本体のアースに使用(グリーンボルトに接続)
横圧着端子 (8-5NS)	2個	蓄電池本体内部コントローラ端子台
絶縁キャップ (TCV-81 白色)	2個	蓄電池本体内部コントローラ端子台
セムスネジ (M5)	2個	蓄電池モジュールへのアース線接続に使用
プチルゴム付きワッシャ (M10用)	4個	コンクリート基礎と蓄電池本体を接続する時に使用
印刷物等		
設置工事説明書(本紙)	1部	
蓄電池システム保証書	1部	

- ◆蓄電池モジュール: JH-AB06、別売品
 * JH-WB1921では蓄電池モジュール2個を使用します。蓄電池モジュール(JH-AB06)に付属品はありません。

- ◆蓄電池ケーブル (JH-YB102またはJH-YB202)、別売品

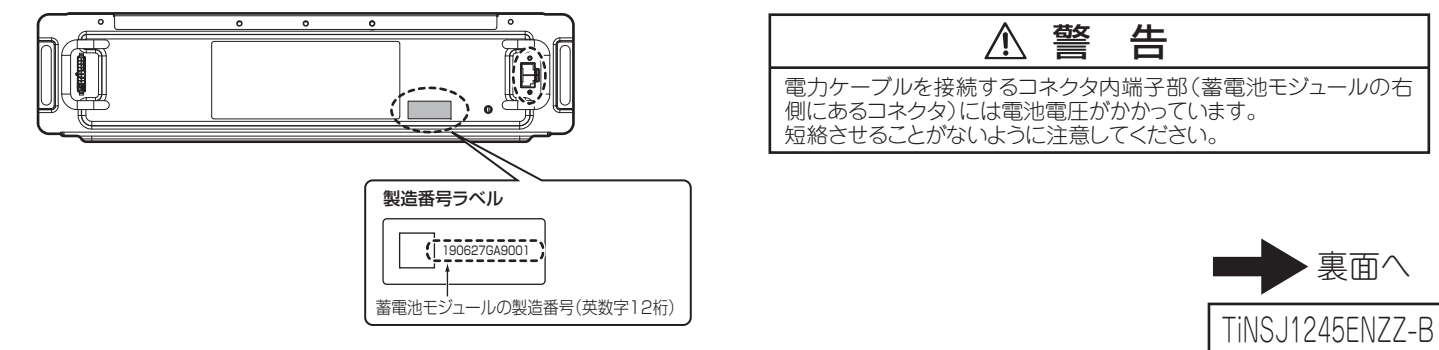
品名	数量	備考
通信ケーブル (10mまたは20m)	1本	パワーコンディショナまたは蓄電池用コンバータ - 蓄電池本体間接続用 スナップバンドは蓄電池本体側の接続で使用

* JH-YB102:通信ケーブル(10m)です。
 * JH-YB202:通信ケーブル(20m)です。

*イラストはJH-YB102を例示しています。

蓄電池モジュール

- ◆蓄電池モジュールの準備
 開封後、蓄電池モジュールに機能を損なうような著しい傷、破れ、欠け、変色、漏液、変形がないことを確認してください。
 蓄電池モジュールは約24kg/個あります。取り扱いに注意してください。
 蓄電池モジュールの製造番号(英数字12桁)を控えて、お客様にお渡しする蓄電池システム保証書に転記してください(長期保証の登録申請にも使用します)。



設置手順

⚠ 注意

各種取付ネジ、パネルを取り外し、取り付ける場合、本紙に記載の締め付けトルク値を守り、正しく締め付けてください。締め付け過ぎの場合、ネジやワッシャを破損するおそれがあります。

🚫 禁止

インパクトドライバーは使用しない。ネジの締めすぎにより、サービス対応に支障をきたす可能性があります。

◆パネルの取外し

梱包箱を開封後、パネルを取り外してください(ネジ4箇所)。



⚠ 注意

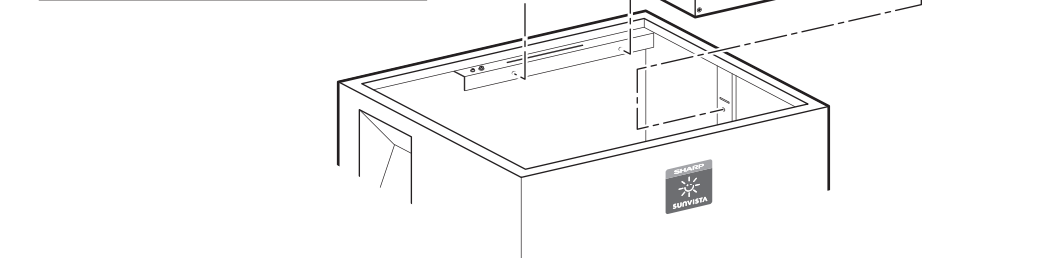
取り外したネジは後で使用しますので、必ず保管しておいてください。ネジの取り外しの際は回転方向に注意してください。誤って締め付け方向にトルクをかけてしまうと、摩擦熱が生じ、ネジ部が膨張して焼き付けを起こす可能性があります。その場合、パネルの取外し、取り付けができなくなるおそれがあります。

◆支持金具付きコントローラの取外し

支持金具付きコントローラを取り外してください(ネジ3箇所固定)。本紙付属品の項を参照して、同梱物を確認してください。

⚠ 注意

コントローラは支持金具を外さずに図の状態を取付け、取外しを行ってください。



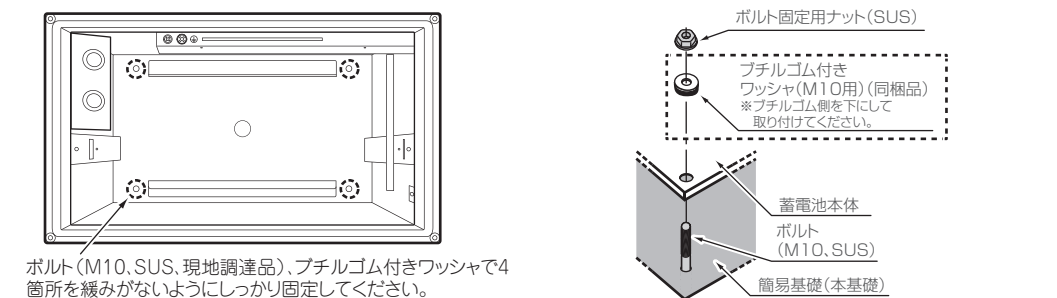
◆蓄電池モジュール固定金具(左)の取外し

蓄電池モジュール固定金具(左)を取り外してください(ネジ1箇所固定)。*蓄電池モジュール固定金具(右)は取外ししません。



◆蓄電池本体の固定

簡易基礎または本基礎に蓄電池本体を固定してください。ブチルゴム付きワッシャはブチルゴム側を蓄電池本体側としてください。



ボルト(M10, SUS, 現地調達品)、ブチルゴム付きワッシャで4箇所を緩みがないようにしっかり固定してください。

⚠ 注意

簡易基礎または本基礎へ蓄電池本体を固定する際は、防水性能の確保のため、必ず同梱されているブチルゴム付きワッシャ(M10用)を使用してください。

蓄電池本体を屋内に設置する場合

屋内設置用金具(JH-WBD03, 別売品)が必要になります。



屋内設置用金具と同梱している設置説明書を参照して、設置面(木材)に屋内設置用金具を固定してください。

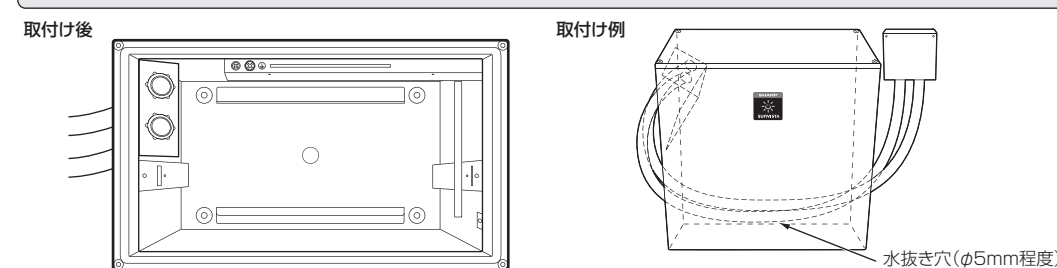
ボルト(M10)4箇所蓄電池本体を屋内設置用金具に固定します。筐体を密閉するために蓄電池本体と同梱しているブチルゴム付きワッシャ(M10用)をブチルゴムを蓄電池本体側にして、ボルト蓄電池本体側に入れてください。

ボルト(M10)は、2.0N・m(20.4kgf・cm)のトルクで確実に締め付けてください。

*ボルト(M10)は、屋内設置用金具と同梱しています。

◆蓄電池本体へのPF管取付け(2カ所)

配線保護のために、PF管(内径28mm)とそれに合う防水コネクタ(適合穴径φ34mm)を使用してください。*コネクタによっては、水の浸入を防ぐために別売りの部材が必要となる場合があります。詳しくは商品仕様をご確認ください。*図のようにPF管の**最も下になる位置には水抜き穴(φ5mm程度)をあけるようにしてください**。この処理は万が一PF管内に水が入ってしまった場合に、蓄電池本体への水の浸入を防止するために必要となります(屋内設置の場合は、不要です)。

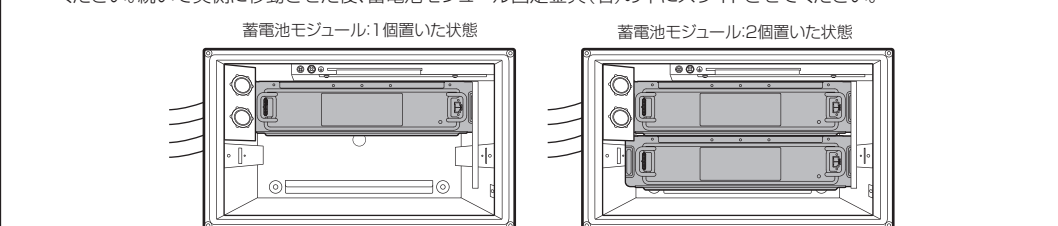


⚠ 注意

蓄電池本体からは必ず2つの配線穴を使用して、電力線(低圧配線)と通信線(弱電流線)を分けて配線を行ってください。電気設備技術基準を満たすために必要となります。PF管の屈曲はその内側の半径が管内径の6倍以上となるようにしてください。

◆蓄電池モジュールの設置

*蓄電池モジュールは図に示した向きで、左右の取っ手を持って、蓄電池本体へと設置してください。蓄電池モジュールの筐体への挿入は、PF管接続部や蓄電池モジュール固定金具(右)があるので、手前側左寄せで入れてください。続いて奥側に移動させた後、蓄電池モジュール固定金具(右)の下にスライドさせてください。

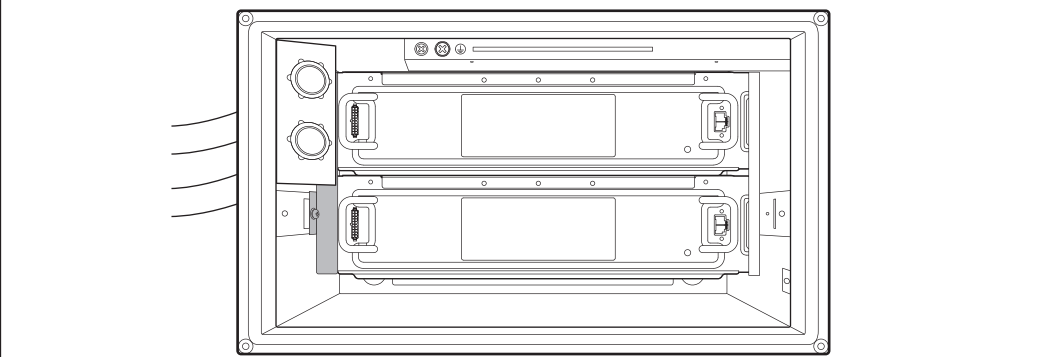


⚠ 注意

蓄電池モジュールは図で示されている向き以外では、適切な結線ができません。蓄電池モジュールは約24kg/個あります。けがをしないように取り扱いに注意してください。また、設置時に蓄電池本体外観を傷つけないように注意してください。

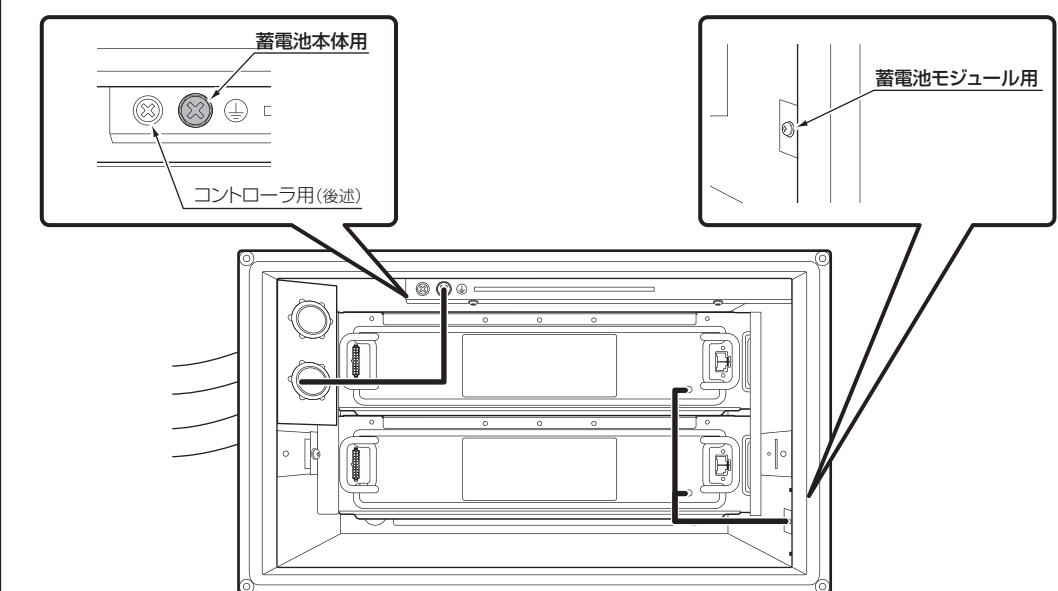
◆蓄電池モジュール固定金具(左)の取付け

蓄電池モジュール2個を設置後、蓄電池モジュール固定金具(左)を取り付けて、蓄電池モジュールを固定してください(ネジ固定:1箇所)。ネジ(M5)は、0.8N・m(8.16kgf・cm)のトルクで確実に締め付けてください。



◆アース線の施工(蓄電池本体用、蓄電池モジュール用)

図のように蓄電池本体のアース線(現地調達品)、蓄電池モジュールのアース線(1組, 同梱品)を接続します。ネジ(M5)は0.8N・m(8.16kgf・cm)、ネジ(M8)は2.0N・m(20.4kgf・cm)のトルクで確実に締め付けてください。

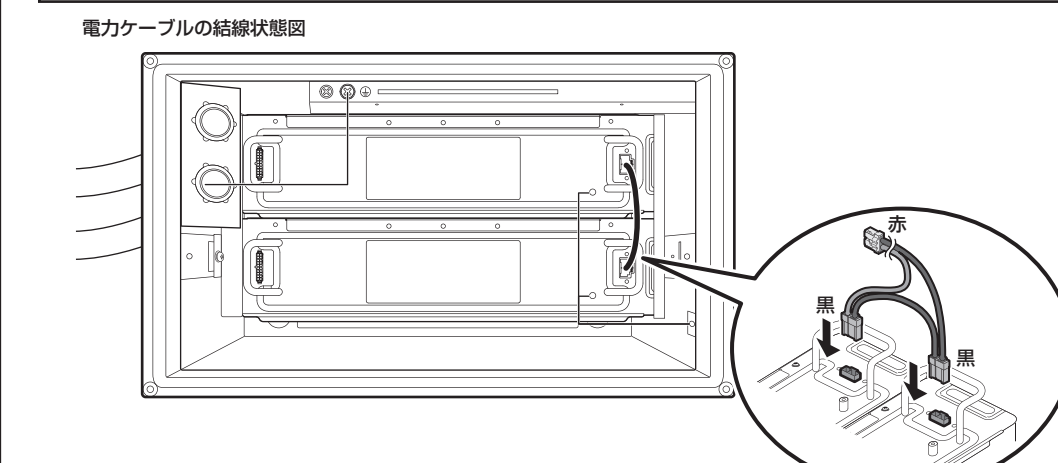


◆電力ケーブルの施工(蓄電池モジュール)

コネクタ(黒)を蓄電池モジュールに接続します。

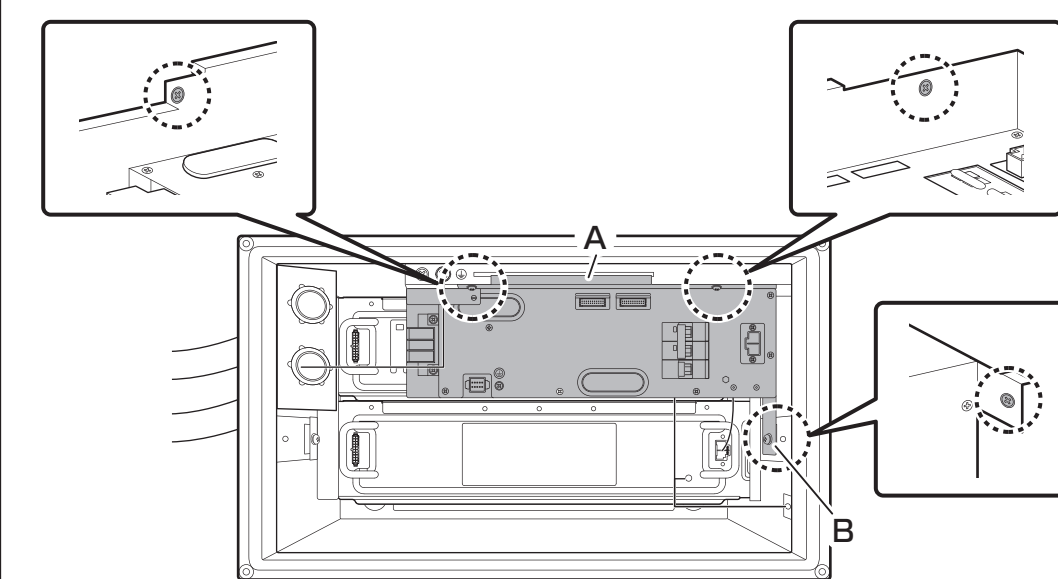
⚠ 注意

コネクタは図の向きで奥まで確実に接続してください。



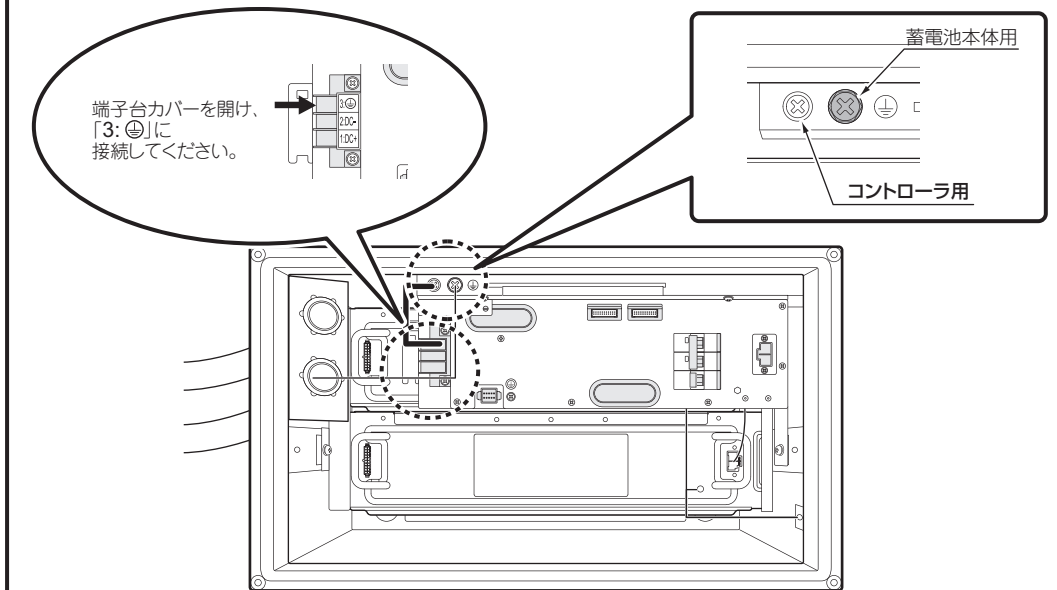
◆コントローラの設置

支持金具付きコントローラは図に示した向きで蓄電池本体へ設置してください(ネジ固定:3箇所)。ネジは0.8N・m(8.16kgf・cm)のトルクで確実に締め付けてください。奥側の支持金具(A)は、はめ込み部分へ左寄せにはめ込んだ後、右方向へスライドして取り付けてください。このとき、右側の支持金具(B)をはめ込み位置へ挿入して取り付けてください。



◆アース線の施工(コントローラ用)

図のように、コントローラのアース線(1本, 同梱品)を接続します。ネジ(M5)は0.8N・m(8.16kgf・cm)のトルクで確実に締め付けてください。



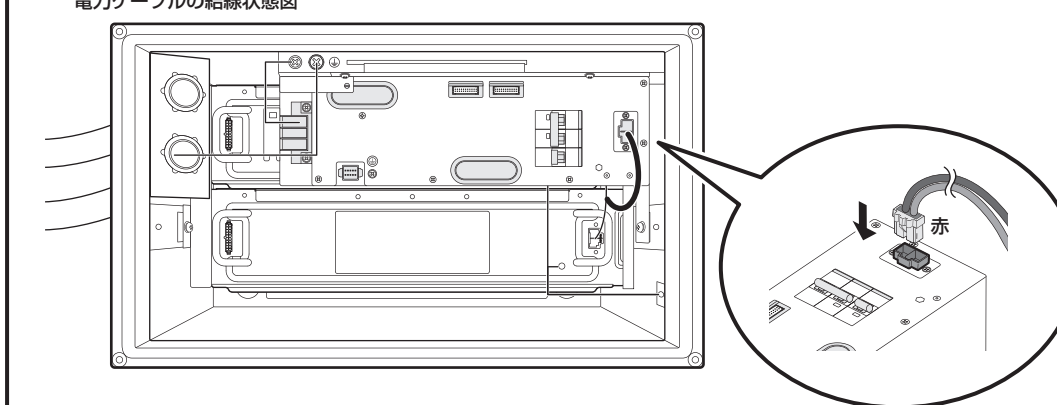
◆電力ケーブルの施工(コントローラ)

コントローラのブレーカーがOFFになっていることを確認してください。コネクタ(赤)をコントローラに接続します。

⚠ 注意

コネクタは図の向きで奥まで確実に接続してください。

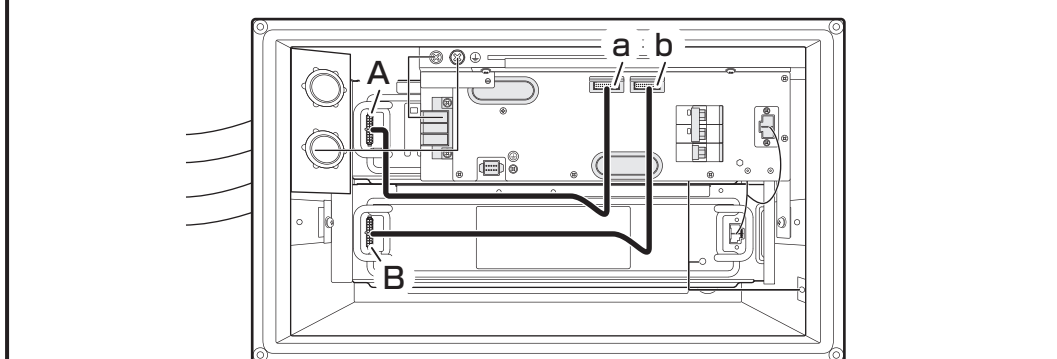
電力ケーブルの結線状態図



◆通信ケーブルの施工

図のように通信ケーブルを接続してください。

通信ケーブルの結線状態図

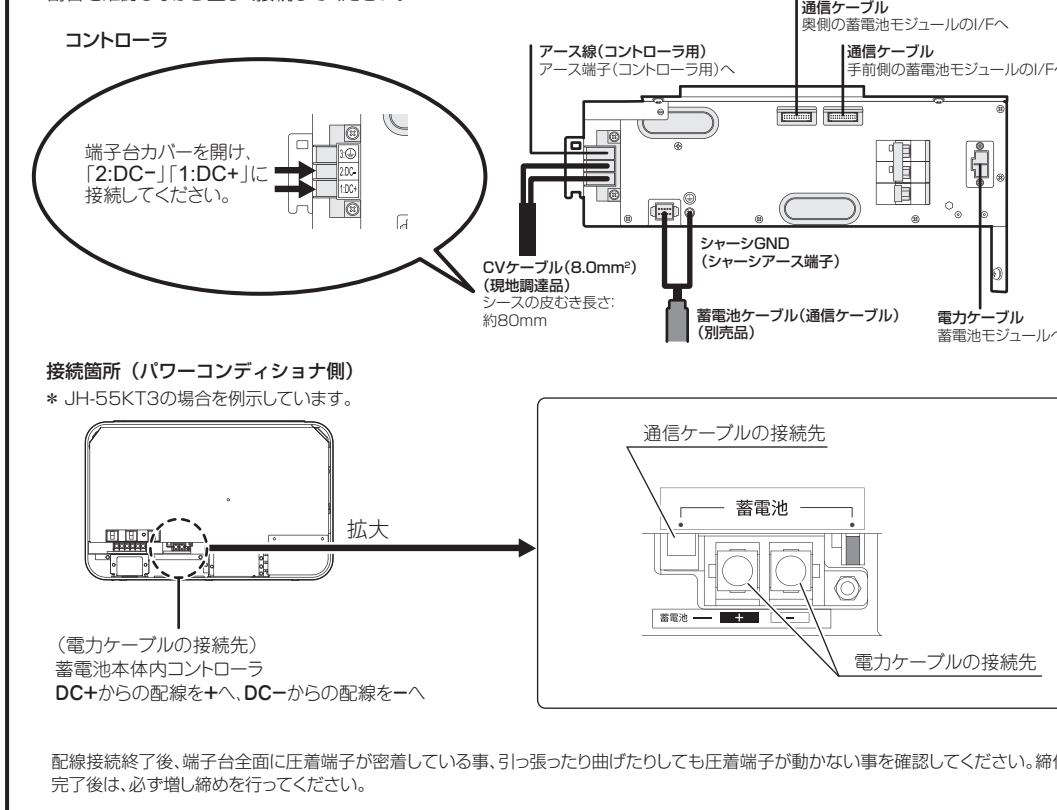


⚠ 注意

通信ケーブルの接続先には決まりがあります。以下のとおり、接続してください。
*奥側の蓄電池モジュールと接続する通信ケーブル(A) → コントローラ左側(22ピン)のコネクタ(a)へ
*手前側の蓄電池モジュールと接続する通信ケーブル(B) → コントローラ右側(24ピン)のコネクタ(b)へ

◆蓄電池本体・パワーコンディショナまたは蓄電池用コンバータ間の接続(電力ケーブル、通信ケーブル)

端子台のネジは、2.5N・m(25.5kgf・cm)のトルクで確実に締め付けてください。シャーシアースのネジは、0.8N・m(8.16kgf・cm)のトルクで確実に締め付けてください。通信ケーブルのコネクタは誤った接続先へは合致しません。動作を確認しながら正しく接続してください。

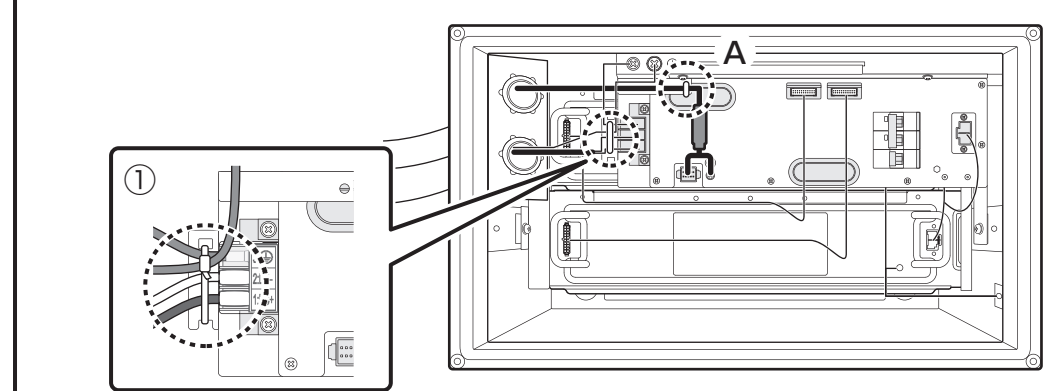


⚠ 注意

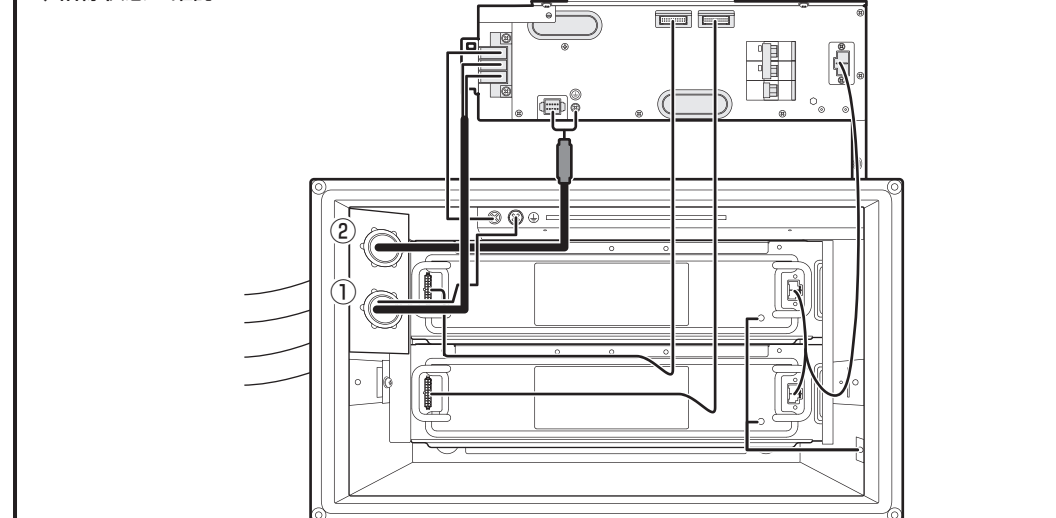
上記のコネクタ(灰塗り部)は空きとなります。

◆ケーブルの固定

図を参考に、結束バンドによるケーブルの固定とスナップバンドの固定を行ってください。
結束バンド(1箇所)
図の①の位置で、電力ケーブル(CV-8.0mm×2心)、蓄電池本体用アース線、コントローラ用アース線の4本を結束固定してください。
スナップバンド(1箇所)
図のAの位置で、通信ケーブルを上方向より固定してください。



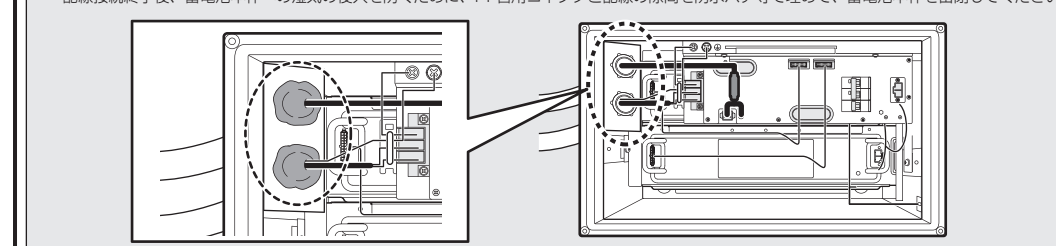
◆結線状態の確認



図のように、PF管①に電力ケーブル(CV-8.0mm×2心)、蓄電池本体用アース線を、PF管②に通信ケーブルを入れてください。ノイズによる機器の誤動作防止や電気設備技術基準を満たすために必要になります。配線接続終了後、端子台全面に圧着端子が密着している事、引っ張ったり曲げたりしても圧着端子が動かない事を確認してください。締付け完了後は、必ず押し締めを行ってください。

◆配線部のパテ埋め

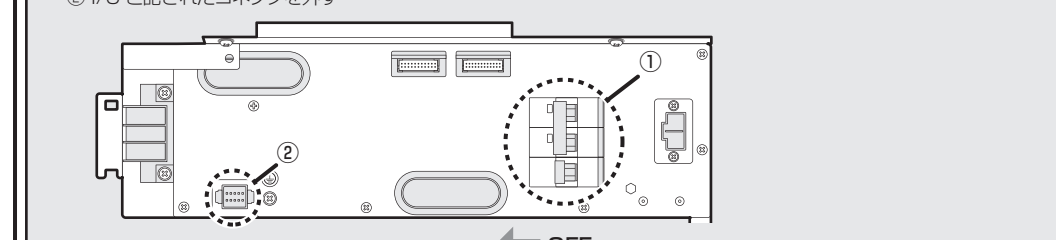
配線接続終了後、蓄電池本体への湿気の侵入を防ぐために、PF管用コネクタと配線の隙間を防水パテ等で埋めて、蓄電池本体を密閉してください。



必ずご確認ください

◆設置工事後、連系開始日まで1週間以上期間がある場合の処置(設置工事が完了せずに一旦作業を終了する場合を含む)

蓄電池システムを停止するために、蓄電池本体で以下の作業を行ってください。
①蓄電池コントローラのブレーカーをOFFにする
②「1/O」と記されたコネクタを外す



⚠ 注意

上記作業を行わずに長時間放置した場合、蓄電池モジュールが過放電になり動作しなくなり(復旧できません)。
*コントローラのLED(緑点灯)はシステム起動後、24時間で自動消灯します。LEDが消灯していても故障ではありませんので、注意してください。

◆PF管接続部の防水処理について

①PF管用コネクタと筐体との接続部にシッキンが挿入されていることを確認してください。
②筐体内側(PF管用コネクタと配線の隙間)の防水処理(防水パテ等)がされているか、確認してください。
*◆蓄電池本体へのPF管取付け、◆配線部のパテ埋めを参照して、防水処理がされていることを確認してください。

⚠ 注意

パネルを閉める前に...
*蓄電池本体内部に、腐食、汚れ、水の侵入がないことを確認してください。
*誤配線、電線、端子の腐食、変形、損傷がないことを確認してください。
*端子台接続端子のネジに緩みがないことを確認してください。(指定トルクで締められているかを確認してください)
*ケーブルの被覆が端子台にかみ込んでいないことを確認してください。
*ケーブルがパネルを閉める際にかみ込んでいないことを確認してください。
*電線をそのまま端子台へ固定していないことを確認してください。(圧着端子の使用は必須です)

◆パネルの取付け

4箇所のネジでパネルを取り付けてください。ネジは、1.2N・m(12.2kgf・cm)のトルクで確実に締め付けてください。締め付け過ぎの場合は、ネジを破損するおそれがあります。

